

# 平成20年度 入学試験過去問題

[推薦入試]

国語

第 1 回	平成 1 9 年	7 月	1 日	実施
第 2 回	平成 1 9 年	8 月	5 日	実施
第 3 回	平成 1 9 年	9 月	9 日	実施
第 4 回	平成 1 9 年	9 月	3 0 日	実施
第 5 回	平成 1 9 年	1 1 月	1 1 日	実施
第 6 回	平成 1 9 年	1 2 月	9 日	実施
第 7 回	平成 2 0 年	1 月	2 0 日	実施
第 8 回	平成 2 0 年	2 月	1 7 日	実施
第 9 回	平成 2 0 年	3 月	2 日	実施
第 1 0 回	平成 2 0 年	3 月	1 6 日	実施

学校法人 神戸創志学園



関西健康科学専門学校

平成二〇年度生 第一回入学選考試験 国語 「推薦入試」

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

名文というと、人はすぐに調子のよい、美辞①レイクを連ねた、④ハテな文章を連想しがちであろう。しかし、これはむしろ美文であつて、①名文というのとは少し違ふ。

優れた美文はたしかに一つの名文であろう。日本では明治二十年代にこのような美文のはやつた時代があつた。「<sup>もぎくしろぎく</sup>黄菊白菊」とかその他二のころに現れた文章を読むと、②このような傾向の文章をいくらでも取り出すことができる。これらのあるものは今でも名文の資格をそなえている。しかし、美文の全部が名文ではないし、また美文でなくても名文といわれるものはいくらもあるのである。

美文は文章の調子や、外形がきらびやかで、ちよつと見には美にきれいであるが、そのために④インシヨウが上ずりしてしまつて、作者の心持が読者の心に入り込んでいかないうらみがある。本当に言いたいことを心に持つているときには、文書は⑤ソツチヨクなほうがいい。③内容にじかにものを言わせる言い方のほうが、④べたな美文調よりも人に強い感銘を与える。

美文ということからは非常に縁遠い文章でも、④このようなことがある。詩人の書く文章などには、時として、ことばがあまりに美しい光輝を持つているので、それに氣をとられ、内容のほうまで心が移行しない。

そこで、名文というものは、一定の客観的標準があるのではなく、内容次第でどうにでも変化しなければならないものであることがわかる。明治二十年代の美文調もその内容が美男美女のロマンスであつたから優れた文章となり得たので、もしその内容が、<sup>むらうせいせい</sup>室生犀星氏の<sup>しせい</sup>書く市井鬼もののようなものであつたから、⑤とんでもない野文に変わらざるを得ないのである。市井鬼もののようなものには、室生氏のようなアモルフ（無定型）な文章がよいのである。あれが、定型的な、例えば森鷗外のような④カクチヨウの正しい文章であつたとしたら（ A ）のような効果はあげられないであろう。アモルフな内容には、アモルフな文章、正格的な内容のものには、正格的な形式というように、内容に応じて、文章が変わつていかなければならないのである。

文章というものはかように、内容に相応したのが、いちばんよい名文である。これを筆者は（ B ）といふことばで表している。内容をずばりと表す文章がよいのである。

(波多野完治 『文章心理学入門』より)

問一 傍線部⑦～⑩のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部①のように言っているが、「名文」と「美文」の関係は次のどれが正しいか、記号で答えなさい。

- ア 「名文」の中の限られたものだけが「美文」である
- イ 「美文」は「名文」であることもあれば、ないこともある
- ウ 「美文」は外形についてのみ、「名文」は内容についてのみいう
- エ 「名文」と「美文」とは評価の基準が異なるから、一口に関係は示せない

問三 傍線部②の内容を具体的に言い換えるとどのようになるか。最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 一つの名文といえる
- イ 明治二十年代という
- ウ 美文の
- エ 「黄菊白菊」のような

問四 空欄Aに入る作品名を選び、記号で答えなさい。

- ア あにいもうと
- イ それから
- ウ 人間失格
- エ 暗夜行路

問五 空欄Bに入るのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 表現への自縛自縛
- イ 表現への最短距離
- ウ 表現への永却回帰
- エ 表現への身分相応

問六 傍線部③を具体的に言い換えた部分を、本文の後半部から十字以内で抜き出しなさい。(句読点を含む)

問七 傍線部④の指示内容を、本文中から二十字以内で抜き出しなさい。(句読点を含む)

問八 傍線部⑤のようになるのはなぜか。本文中の語を用いて十五字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

二 次の傍線部の漢字はカタカナに、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 動作が緩慢
- ② 陰謀を企てる
- ③ 流行性感冒にかかる
- ④ 前代未聞の事態
- ⑤ 不穩な様子
- ⑥ ダネット剤を与える
- ⑦ ゴウジヨウな人
- ⑧ ゴカクに戦う
- ⑨ 欠点をシテキする

平成二〇年度生 入学選考試験 国語 〔推薦入試〕

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

旅とは単に一点から一点への移動を意味しない。ただの移動が問題ならば、たしかに（ A ）的に無駄なく行われるのが望ましい。（ B ）新幹線のシステムは、時間もどんどん早くなるわ、①ギップを買うのも電車のダイヤルを回すだけですむわで、だんだん魔法の杖に近くなっている。（ C ）、旅というものは、移動そのものではなく、移動の（ D ）が大事なのだ。私の子どもですら、それを直感的に感じとっていて、九州へ行くにも行きは新幹線でいいけれども帰りは寝台列車にし②なければいざと③チエウモンをつける。それで寝台車で何をしているかという、いつまでもこそこそ、ブラインドの陰から外を見ているらしい。夜が明けると「ぼくは何時まで起きていた。」「わたしは何時まで。」と変なことを④シマシ合。しかし、私は、なんだおまえだ、せつかく寝台車に乗ってずっと起きているんなら意味ないよ、ばかだなと怒る気にならない。自分でも⑤そういうばかかなことをした経験を持っているからである。真夜中の⑥小さな駅。ホームには思いもかけずうつすらと言が降り積もって、低い声で駅名を告げながら歩く駅員の足跡が点々と黒く残っている。柱から突き出た裸電球の光が、ブラインドを上げた寝台の中につばいにさしこむ。がらんとした駅舎には⑦ケハイもない。はるかな田舎のこの町で、人はみな眠りについているだろうに、汽車に揺られて来た自分一人が、寝もやらず、夜の景色を⑧眺めている。景色といったところで、駅を出ればまた闇の中に点々と明かりが⑨瞬いているばかり……子どもの私がいつたい何を考えていたのかは少しも記憶にはないが、旅をしているのだという実感を、そういうときにこそしみじみと味わっていたような気がする。

夢というか、⑩ロマンというか、気まぐれというか、言い方はなんだつていいのだが、ともかく旅には必ずこんな要素があるもので、それは新幹線的な能率とか、実用性などはなんのかかわりもない。⑪それは「もの」の理論を離れた精神の自由な⑫飛翔、つまり、「あそび」にはかならない。このころは、非日常性の追求などときいたふうな口がきかれるけれども、「なにか閉じ込められたような感しをする」新幹線に積み込まれ、着いた先では観光バスに詰め込まれ、宿屋に押し込まれて、ただコンベヤーに乗ったような旅ならば、酷電に積み込まれ、会社に詰め込まれ、マンションに押し込まれている日常と比べて、さっぱり変わりばえがしない。

（別宮 貞徳 『複眼思考のすすめ』より）

問一 傍線部⑦く⑧について、カタカナは漢字に、漢字には読みを書きなさい。

問二 空欄Aに入れるのに適当な語を本文中から探して書きなさい。

問三 空欄B・Cに入れるのに最も適当なものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- |        |        |       |
|--------|--------|-------|
| ア さて   | イ しかし  | ウ つまり |
| エ なるほど | オ 要するに |       |

問四 空欄Dに入れるのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| ア 過程 | イ 目的 | ウ 時間 | エ 費用 |
|------|------|------|------|

問五 波線部⑨・⑩の品詞名を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| ア 名詞  | イ 形容詞 | ウ 動詞  |
| エ 助動詞 | オ 助詞  | カ 連体詞 |

問六 傍線部①「そういうばかなこと」を筆者はどのようにとらえているか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもたちは楽しいかもしれないが、時間的にも空間的にも明らかな浪費であるとして否定的にとらえている
- イ 怒るほどのことではないと思うけれど、羽目をはずしすぎるのはまずいことだとして否定的にとらえている
- ウ たしかに無駄な面はあるものの、人生においてそれはけっして無意味な経験ではないとして肯定的にとらえている
- エ 大人から見るとどんなに愚かな行為でも、子どもの発達段階においては必要なこととして肯定的にとらえている

問七 傍線部②「ロマン」とあるが、旅のロマンとでもいうべき具体的な経験が書かれている箇所を本文中から探し、その初めと終わりの三字を書きなさい。

問八 傍線部③「それ」は何をさすか。本文中の語を用いて答えなさい。

問九 筆者は「旅」とはどのようなものだと考えているか。四十字以内で答えなさい。(句読点含む)

二 次の傍線部の漢字はカタカナに、カタカナは漢字に直しなさい

- |              |               |             |
|--------------|---------------|-------------|
| ① 荘厳な寺院      | ② 監督を更迭する     | ③ 偏屈な人      |
| ④ 異分子を排斥する   | ⑤ 他人に翻弄される    | ⑥ 負けてブシギする  |
| ⑦ ヨダンを許さない事態 | ⑧ 医者 of ショホウ箋 | ⑨ 言語ドウダンの行動 |

平成二〇年度生 入学選考試験 国語 〔推薦入試〕

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

好きな「役者」の一人に、ジャンヌ・モローというフランス映画の女優さんがいる。ひいきの目には①あはたもえくほというから、私の感想にも怪しいふしがないとは言いきれないが、今後、このひとの出演している映画は必ず観に来よう、と思い立ったきっかけは、じつは彼女のうしろ姿であった。

別に変わったポーズの演技をしていたのではない。クローズ・アップされていたのでもない。モローは画面の右寄りを、あまり大きくない②ケイブツの一つとして、静かに、ゆつくりと向こうに歩み去っただけなのである。

時間にして、十秒も数えきれなかったと思う。半袖の下、左肘から指先にかけての何気ない振りにもぞつとするような中年がにじんでい、ああ「役者」だと感動したが、あの、氷にも<sup>ほのお</sup>焔にも、また<sup>かみそり</sup>剃刀にも<sup>むち</sup>鞭にも変わる大きな瞳や、容易には開かれそうもない厚い唇と向かい合っている時よりも強く、モローという人を印象づけられたのは確かである。気負いはなく、しかし③瀬かと言いたいほどの<sup>ほこ</sup>矜りど、この世では癒されそうもない寂しさをもつて、うしろ姿だけであれほど女の④メインをよよくあらわした女優さんには、⑤見聞の狭い私はまだめぐりあつていなかった。

「⑥目は心の鏡」とか、「目は口ほどにものを言う」といったような<sup>ことわざ</sup>諺がある。ものを言うのは、しかし口とか目に限ったことではない。いまのうしろ姿のように、本来発語できないものに、（ A ）かえつて言葉を感じるという例は珍しくないのである。

悲しさや寂しさを⑦強いようとしている俳優の背は、ずい分たくさん見て来たような気がする。愚かさや頑固さを見てくれと言っているような背も少なくなかったと思う。しかしそれらは、多くの場合、強調というよりも⑧カジヨウであつたから、人間らしさはかえつて薄められていった。

観客にうしろを見せて画面を遠ざかつてゆくジャンヌ・モローに、私はその時、あの個性的な顔立ちで迫られる以上の切実さをもつて、わりきれないままに恐ろしくも、また⑨シリヨクテキでもある人間を感じさせられていたと思う。

演技、あるいは表現には現実に対する加減乗除が必要とされるから、モローのうしろ姿の演技もそれなりに強調されたものではあろうが、⑩独特の目も、唇も見せないで⑪ゆうに女を見せた彼女の演技は、隠しても隠しても隠しおおせない人間のからくり、無防備の中に時として<sup>よ</sup>鑑つた、自分以上に自分を見せてしまう人間の⑫回介さ、存在の神秘を、⑬サカタにとつた、すごい演技のように見えた。そしてこのことは、ある部分が隠され、⑭抑えられることで、そのものの本質がかえつて強調されるという法則についても、ごく自然に考えさせてくれるのである。

（竹西 寛子 『うしろ姿』より）

問一 傍線部⑦く⑧について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 傍線部①「あばたもえくぼ」の諺の解釈として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア あばたもえくぼも差別なく好意をよせる
- イ 好意をもてば、あばたもえくぼに見える
- ウ あばたのある人にもえくぼができるように、長所はどんな人にもある
- エ あばたとえくぼの見わけがつかない

問三 傍線部②「目は心の鏡」の意味を簡潔に答えなさい。

問四 空欄 A に入るのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア しかしながら
- イ それですらも
- ウ そうであればこそ

問五 傍線部③「強いようとしている俳優の背」の「強いる」と反対の意味で使われている語を本文中から探し、六字で答えなさい。

問六 傍線部④「独特の目」について、具体的に書かれている箇所を本文中から探し、その初めと終わりの三字を答えなさい。  
(句読点は含まない)

問七 傍線部⑤「ゆうに」の意味に最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア しとやかに
- イ 優美に
- ウ じゆうぶんに
- エ 必要以上に

問八 傍線部⑥「抑えられる」と同じ意味で使われている語を本文中から探し、終止形で答えなさい。

二 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はカタカナに直しなさい。

- ① アンピを      気遣う
- ② キゲンが      良い
- ③ 発言を      ツツカイする
- ④ 記録を      コウシンする
- ⑤ 驚異の目を      みはる
- ⑥ 潜意識を      喚起する
- ⑦ 荘厳な寺院
- ⑧ 律儀な人
- ⑨ 真偽を      確かめる

平成二〇年度生 入学選考試験 国語 〔推薦入試〕

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「うちの裏の山で※じねんじよがとれましてネ。休みはそれをとるのに夢中です」

和田さんは静かに笑いながらそう言った。東京のまん中のしやれたレストランで聞く話としてはいかにも①浮き世ばなれしているが、そういう和田さんの②ゴドクということを感じた。

決して③愚痴を言わない人だから、どういう苦労があつたのか、まったく知らない。それでも心はどことなくあらわれるものだ。私はその静かな④ヨクセイのきいた生き方にいつの間にか⑤キョウメイするようになっていたであろう。和田さんと話すのがたのしみであつた。どちらかといえば人付き合いのよくない私にとってこれは珍しい。

ある月曜の朝、( A )、うちでございそしているときに、玄関のベルを押してだれかがやつてきた。出てみると、和田さんが、何やらぶらさげている。

「先日お話しましたじねんじよ、山芋をきのう掘りましたので少しおもちしました」

( B ) 静かに、すこし淋しそうに笑つてそう言った。まあまあ、お上がりくださいということになって、山芋を折らずに掘りあげるのがいかに難しいかというような話をきいた。それを語るときの和田さんは、いつになく、いきいきとしている。そういう山芋をもらつて、こちらも胸が熱くなるようだつた。

何のはずみであつたか忘れたが、和田さんに、②新しいことを始めたらどうです、ということをするめたことがある。それにはまるでとり合わないで、すぐ仕事の話に移つてしまった。( C ) 本作り、編集が好きであつたに違いない。仕事もじねんじよのようなものであつたかも知れない。③折れないように、折れないように、なんとかして、みことな芋をそつくり掘り出そうとしていて、つい、自分を折つてしまったのである。

六年前にふとしたきっかけで和田さんを知るようになった。初対面のときに、なにか本を出しませんか、とすすめてくださった。すき通るような好意を感じた。喜んでその気になつてはみたものの④なかなか思うにまかせない。そんなとき、和田さんは山芋を掘り上げるようにそつとやわらかくはげましてくれる。それから一年してやつと私の『日本語の論理』は出た。考えてみると、私も和田さんに掘り出してもらつた⑤ヒンシヤクな山芋の一本であるような気がする。

和田さんとは、T社の和田恒氏のことである。まだ若いのに、十一月はじめに⑥急逝された。心から⑦眞摯をいれる。

(注) ※じねんじよ やまいものこと

(外山 滋比古 『本と人』より)

問一 傍線部⑦⑧について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 文中には「、」が多く使われ、俳味のある、愛惜のこもった含蓄深い表現になっているが、その「、」を日本語表記上なんと呼んでいるか、漢字二字で答えなさい。

問三 空欄A～Cに入るのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- |   |       |        |       |         |
|---|-------|--------|-------|---------|
| A | ア まだ  | イ おそく  | ウ もはや | エ なんとなく |
| B | ア しかも | イ しかし  | ウ やはり | エ また    |
| C | ア なぜか | イ なんでも | ウ 少しは | エ よほど   |

問四 傍線部①「浮き世ばなれしている」について筆者はなぜそう感じたのか。最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 余暇をしねんじよ掘りに過すとはあまりにのんきな話なので
- イ 東京のレストランでしねんじよの話題はみつともないから
- ウ いまどきしねんじよを掘ったりするような裏山などあるわけではないから
- エ せつかくの休みをしねんじよ掘りではあまりに気の毒だから

問五 傍線部②「新しいこと」について何をさしているか。最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 出版以外の仕事
- イ 新機軸の企画
- ウ 本作り、編集以外の業務
- エ 山芋掘り以外の趣味

問六 傍線部③「折れないように、折れないように、なんとかして、みごとな芋をそつくり掘り出そうとしていて、つい、自分を折ってしまったのである」について、比喩的に表現していることを具体的な事実として説明しなさい。

問七 傍線部④「なかなか思うにまかせない」について、例にならい品詞に分解しなさい。

(例) 形容動詞 動詞 助詞 副詞 動詞 助動詞

静かに / 笑い / ながら / そう / 言っ / た

二 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- |             |           |             |
|-------------|-----------|-------------|
| ① 相手をイアツする  | ② カクウの話   | ③ コウトウ試問をする |
| ④ モクヒ権を行使する | ⑤ 生徒を引率する | ⑥ 眼前での交通事故  |
| ⑦ 会議が紛糾する   | ⑧ 責任を転嫁する | ⑨ 相手に肉薄する   |

平成二〇年度生 入学選考試験 国語 [推薦入試]

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

次の文章が、新田次郎の作品『アラスカ物語』の冒頭部分である。登場人物フランク安田は、警備船ベア一号をあとにして、極地に向かっているところである。

フランク安田は、①それを見まいとした。眼を氷原の上に落としてひたすら歩き続けようとした。だが②そうすることばすこぶる危険なことであった。方向を失ったときは死であり、彼の死は同時にベア一号の死でもあった。

フランク安田は眼を上げて（ A ）を見た。

空で光彩の③バクハツが起こっていた。赤と緑が（ B ）渦を巻き、その中心から緑の矢があらゆる空間に（ C ）いた。彼に向かつて降りそそがれる無限に近いほどの長い緑の矢は④間断なく※明滅を（ D ）いた。

光の矢は⑤彼を射抜くことはない。それは頭上はるかに高いところで消えた。だが、消えた緑の矢は、感覚的には、姿を隠したままで、彼に向かつて（ E ）いた。身体に痛みこそ感じないが、⑥恐怖は彼の全身を貫き、しばしば立ち止まらざるを得なかった。

空間で爆発する光彩のきらめきがあつても音はなかつた。空間いつばいを埋めている、濃緑色の矢のうなり声も聞こえなかつた。すべてが⑦セイジャクな⑧クラヤミの中で行われていた。

彼は※北極光が想像もつかないほど高い空で起こる神秘的自然現象であり極地でしか見られないものであることを⑨既に知っていた。何等⑩ギガイを加えるものでないことも知っていた。

それは夜空に咲く花でもないし、打ち揚げられた※煙火のようなものでもなかつた。それこそ暗い空間における色彩の⑪フトウであり、夜の天帝の⑫ケンイを⑬ハイケイにした⑭威嚇であつた。

虹とは全然異なつたものだつた。虹には色の配列の順序が決められていた。色と色の境目には中間色があつた。

オーロラと虹との間には空間における色彩の表現の一つという以外には、ほとんど共通点はなかつた。オーロラには虹のように、配列⑮チツジヨに規則がなかつた。色と色との境界をその両側の色の中間色に接続することもなく、不連続に赤から緑にまた突然黄色に転じていた。オーロラは原色に満ち満ちていた。原色以外の色もあつたが、その色はすべて個性的で、オーロラという場でしか見られないものであつた。

- (注) ※明滅 明るくなつたり暗くなつたり、明かりがついたり消えたりすること  
 ※北極光 北極に近い空に現れる、放電による発光現象  
 ※煙火 花火

(新田 次郎 『アラスカ物語』より)

問一 傍線部㉗㉘について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 傍線部㉑「それを見まいとした」について、なぜそうしたのか、簡潔に答えなさい。

問三 傍線部㉒「そうすることはすこぶる危険なことであった」について、どうして危険なのか、本文中の語を使って十字以内で答えなさい。

問四 空欄 A に入るのに最も適当な語を本文中から探し、漢字三字で答えなさい。

問五 空欄 B ～ E に入れるのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- |          |        |         |           |
|----------|--------|---------|-----------|
| ア くりかえして | イ 光つて  | ウ 放射されて | エ ばらまいて   |
| オ 流して    | カ 向かって | キ まとまつて | ク かたまり合つて |

問六 傍線部㉓「間断」について、その意味を簡潔に答えなさい。

問七 傍線部㉔「彼を射抜くことはない」について、その理由を本文中の語を使って二十字以内で答えなさい。

問八 傍線部㉕「恐怖は彼の全身を貫き、しばしば立ち止まらざるを得なかった」について、どうして恐怖におそわれたのか、本文中の語を使って二十字以内で答えなさい。

問九 虹とオーロラの相違点を二つ簡潔に答えなさい。

二 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- |                      |                     |                       |
|----------------------|---------------------|-----------------------|
| ① <u>イガイ</u> な出来事    | ② 消化 <u>キカン</u> が弱い | ③ 責任感が <u>ケツジヨ</u> する |
| ④ <u>トクイ</u> な体質     | ⑤ <u>穩健</u> な思想の持ち主 | ⑥ 人跡未 <u>踏</u> の地     |
| ⑦ 立派な <u>最期</u> をとげる | ⑧ <u>善処</u> を要望する   | ⑨ 異分子を <u>排斥</u> する   |

平成二〇年度生 入学選考試験 国語 [推薦入試]

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

山の秋は早い。一日増しに冷え込み、それにつれていよいよ青味を深めて透き通る※玻璃色の天空を浅間が山頂の鉱物めいた鋭い①稜線<sup>りやうせん</sup>でいまにもぱりつと突き②クダくかとうち眺められる晴れがつづき、ある朝、ふいに白い③シモが降りたりすると、そろそろ紅葉の季節になる。それがまたはなはだ長い。まず道ばたや、斜面の草紅葉をさきがけに次第に染まって行く樹々も、種類により、時の過ぐるに従って色彩をかえる。から松についで多い檜<sup>ひのき</sup>のたぐいを例にとつても、あざやかな黄にはじまって淡紅に、それが朱の色に深まって照り栄えたあと、今度は紫にかわってくろずみ、ようやく最後の褐色になる。これらの推移は檜には限らない。平地では常緑樹のように見られる木々も、ここで見事秋の色に染まる。それ故紅葉の名所と呼ばれる、楓<sup>かえで</sup>の鮮紅ひと色に塗りつぶされる土地よりは多彩で、④ホウマンで、浅間のみこそ孤高に⑤ゲンゼンと暗紫色の山容を（ A ）も、つづく※山羣帯<sup>さんぐんたい</sup>の峰々は、⑥朝にもならないような雑木まで思い思いに色をかえるから、なにか山の肌いめんが無数のチューブからしぼりだされ、ありとあらゆる色絵の具で盛り上がったパレットを連ねたように見える。

⑦色彩の饗宴<sup>きやうえん</sup>がなかなかとつづくのに⑧較べて、落葉はなんとあわただしいだろう。⑨焚くにちようどよいほど持つて来るような徒唄<sup>たうた</sup>は、山の風にはない。秋が⑩づけるにつれていよいよ頑固に、⑪気紛れで、どうかしてある夜ひとあはれしてやろうとなると、明るる朝は森、林、樹という樹、枝という枝が追いはぎにあつたように裸にされてしまう。わずかの⑫お目こぼしはから松である。一直線にそそりたつ樹頭の尖端に、マッチの長さもないか細い棒状の葉がひとつまみの金髪のようにくつついている。これが秋の最後の⑬閃きで、いつのまにかそれもコーヒー色に焦げる時、すべてが冬に一変する。

⑭枯木叢林<sup>こぼくそうりん</sup>の高原の村はいよいよ完全に空っぽである。（ B ）を失った鳥たちはたまに鳴いてもひそやかにしか歌わず、人間の声は姿とともに疾くに消え去つて、以来、どこにも聞こえない。このあいだで（ C ）をまえより明瞭にするのは崖下の溪流である。落葉期にはいつから、※遮蔽物<sup>しゃへいぶつ</sup>になつてた樹々の被<sup>おほ</sup>いがとり除かれたため、流れはいつも（ D ）に叫ぶ。耳をすますと、なにか河童の小さい子供らが、がやがや水の底で⑮唄きあつてでもいるかのような気がするが、流れの音は、（ E ）を乱すより、かえつて※漠々とした空間の静けさを一種リズムカルに深化させる。

- (注) ※玻璃 水晶、ガラス  
 ※山羣帯 大きさや形の似た山々の連なり  
 ※遮蔽物 他から見えないように、おおいをするもの  
 ※漠々 広々としているさま

(野上 弥生子 『菓箱』より)



平成二〇年度生 入学選考試験 国語 [推薦入試]

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

街を歩いていると、回りを見まわして人影を確かめてからニヤツと笑ってしまうような①オモシロい西洋館に出会うことがある。

広島<sup>ひろしま</sup>の山間部の双三郡吉舎町<sup>ふたみづぐんきちさちょう</sup>で見つけた田中写真館は、昭和元年の建物で、全体の作りはごくありふれた田舎写真館だったが、玄関の上の位置の二階の窓が変わっていて、なんとカイゼル②髭の形に作ってあった。これなら髭の下の入口は文字通りの口となつて、お客さまを（ A ）飲み込んでくれることまちがいない。明治のはじめに写真というものが登場した時、着なれぬ洋服のカラーを立て、付け髭を付けてカメラの前に直立したなつかしい時代の③ナヨリを伝えてくれる④ユカイな造形だった。

東京の住宅地だつて、ていねいに観察すればこれで①なかなか捨てたもんじやない。さすがに住宅地は茶目つゝ気あふれる表現はかけをひそめるが、かわりに、〈楽しいわが家〉ならでは、ほほえましさがある。

山の手の広屋を②探偵中に、聖心女子大のそばで昭和はじめとおほしき小さな西洋館を見つけた。③セイシ<sup>せいし</sup>それないのを理由にいつものように門を入り、車寄せに近づいて、いつものように屋根、④ノギ、窓、と上からチェックし、「いまち」とつぶやきながら、地べたすれすれのところで土右のあたりに何か動物が⑤うずくまつているのに気づいた。猫背になつてのぞき、⑥メガネを指先で押し上げながら見ると、床下用の通気孔のところにカモが三羽⑦歩いている。通気孔の金物はふつう簡単な格子状で、⑧がんばつても植物紋様とまりなのに、動物というのは珍しい。それも、ネズミや豚ならともかく、空を飛ぶ渡り鳥を、アヒルじゃあるまいし、地べたに歩かせるとは⑨悪い⑩シユミだ。

しかしさてよ、と、私の西洋館凶像字が耳もとでつぶやいた。建物の下に歩く渡り鳥があるなら、もしや上には飛ぶ渡り鳥が。そこで、ふだんは控えている手口だが、建物の右脇のくぐり戸を押しあけて庭の方へ回つてみた。玄関の周辺ならウロウロしても、「すみません、いい建物だつたものでつい」でも済むが、庭へ入ったらそうはいかない。⑪シバフをツと歩いてふり返りざま顔を上げると、ヤツパシ、だった。二階のベランダの手すりのところにカモが三羽、⑫悠然と飛んでいる。⑬家の中からもかん高い声が飛んで来た。

(藤森 照信 『建築探偵の冒険 東京篇』より)

問一 傍線部㉑㉒について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 空欄 A に入るのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア ガツチリ                      イ そつくり                      ウ ガツポリ  
エ すつかり                      オ バツチリ

問三 傍線部㉓「なかなか捨てたもんじやない」の意味として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア そこそこ希望を持つことができる  
イ ある程度関心を抱くことができる  
ウ かなり役に立つものが見つかる  
エ ちよつと面白いものが見つかる

問四 傍線部㉔「探偵」の意味として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 探知                      イ 探訪                      ウ 探検                      エ 探求

問五 傍線部㉕「うずくまっている」、傍線部㉖「歩いている」は、カモが実際に生きているかのような言い方ですが、それに対して、カモが通気孔の格子の紋様であることを示している語を本文中から探し、二字で答えなさい。

問六 傍線部㉗「がんばっても」の意味として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア はりきつても                      イ りきんでも  
ウ くぶうを癡らしても                      エ 困難に屈しないにしても

問七 傍線部㉘「悪いシユミだ」の意味として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 穏当な常識に欠けている                      イ 考え方がとつびで、偏っている  
ウ 好みに品位がなく、趣がない                      エ 他人に不快感を与える

問八 傍線部㉙「家の中からもかん高い声が飛んで来た」についてこの表現には一種のおかしさがありますが、それはどういっておかしさか、二十字以内でわかりやすく説明しなさい。 (句読点含む)

二 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- ① キユウカを申請した                      ② 交渉がケツレツした                      ③ 経営の再建にシユリョクする  
④ ハクリ多売の経営                      ⑤ 閉塞感のある社会                      ⑥ 諮問委員会の設置  
⑦ 千載一週のチャンス                      ⑧ 夜空に閃光を放つ                      ⑨ 呂律がまわらない

平成二〇年度生 入学選考試験 国語 [推薦入試]

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

その山を下りて下田街道に出ると、炭焼の⑦ケムリが幾つも見えた。路傍の材木に腰を下ろして休んだ。踊り子は道にしやがみながら、桃色の櫛で犬のむく毛を⑧櫛いてやっていた。

「歯が折れるじゃないか」とおふくろが（ A ）。

「いい。下田で新しいのを買うもの」

湯ヶ野にいる時から私は、この前髪に挿した櫛を⑨モろって行くつもりだったので、犬の毛を梳くのはいけないと思つた。

道の向こう側に沢山ある篠竹の束を見て、⑩ツエに丁度いいなぞと話しながら、私と栄吉とは一足先に立つた。踊り子が走って追っかけて来た。自分の背より長い太い竹を持っていた。

「どうするんだ」と（ I ）が聞くと、ちよつと（ B ）私に竹を突きつけた。

① 「ツエに上げます。一番太いのを抜いて来た」

② 「駄目だよ。太いのは盗んだと直ぐ分かつて、見られると悪いじゃないか。返して来い」

踊り子は竹束のところまで引き返すと、また走って来た。（ C ）中指くらいの太さの竹を私にくれた。そして田の⑪畦に背中を打ちつけるように⑫夕刈れかかつて、苦しそうな息をしながら、女達を待っていた。

私と栄吉とは絶えず五六間先を歩いていた。

「それは、抜いて金歯を入れさえすればなんでもないわ」と、踊り子の声がふと私の耳にはいつたので振り返ってみると、踊り子は千代子と並んで歩き、おふくろと百合子とがそれに少し後れていた。私の振り返ったの気づかないらしく、千代子が言った。

「それはそう。そう知らせあげたらどう」

私の⑬嘲らしい。（ II ）が私の歯並びの悪いことを言ったので、（ III ）が金歯を持ちだしたのだろう。顔の話らしいが、それが苦にもならないし、聞き耳を立てる気にもならない程に、私は（ D ）気持ちになっているのだつた。⑭暫く低い声が続いてから、踊り子の言うのが聞こえた。

「いい人ね」

③ 「それはそう。いい人らしい」

④ 「ほんとにいいね。いい人はいいね」この物言いは単純で開けつ放しな響きを持っていた。感情の傾きをばいと（ E ）投げ出して見せた声だった。私自身にも自分をいい人だと素直に感じる事ができた。晴れ晴れと眼を上げて明るい山々を眺めた。二十歳の私は自分の性質が孤児根性で⑮歪んでいると激しい反省を重ね、その息苦しい憂うつに堪え切れないで、伊豆の旅に出て来ているのだつた。（ F ）、世間⑯尋常の意味で自分がいい人に見えることは、言いようなく有難いのだつた。山々の明るいのは下田の海が近づいたからだつた。⑰私はさつきの竹のツエを振り廻しながら秋草の頭を切った。

途中、ところどころの村の入口に立て札があつた。

—— 物乞い旅芸人村に入るべからず。

(川端 康成 『伊豆の踊子』より)

問一 傍線部㉗㉘について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 空欄Ⅰ～Ⅲに入る人物を選び、記号で答えなさい。

- |       |        |       |
|-------|--------|-------|
| ア 踊り子 | イ おぶくろ | ウ 私   |
| エ 栄吉  | オ 千代子  | カ 百合子 |

問三 空欄A～Fに入るのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- |   |         |          |           |         |
|---|---------|----------|-----------|---------|
| A | ア 笑った   | イ 嘆いた    | ウ 指摘した    | エ たしなめた |
| B | ア 不服そうに | イ びつくりして | ウ まごつきながら | エ こわごわと |
| C | ア すると   | イ 今度は    | ウ また      | エ とみるまに |
| D | ア むなしい  | イ 冷静な    | ウ 親しい     | エ 腹立たしい |
| E | ア 遠くに   | イ 幼く     | ウ 大儀そうに   | エ 皮肉っぽく |
| F | ア だから   | イ とはいえ   | ウ とても     | エ しかし   |

問四 傍線部①～④の会話文の語り手を選び、記号で答えなさい。

- |       |        |       |
|-------|--------|-------|
| ア 踊り子 | イ おぶくろ | ウ 私   |
| エ 栄吉  | オ 千代子  | カ 百合子 |

問五 傍線部⑤「私はさつきの竹のツエを振り廻しながら秋草の頭を切ったについて、私のどのような気持ちを表現しようとして書かれた文か。わかりやすく説明しなさい。

問六 本文中から《まぶたの裏がかすかに痛んだ》の一文が脱落している。その入るべき位置の直前の六字を抜き出しなさい。  
(句読点は含めない)

問七 次の中から川端康成の作品を一つ選び、記号で答えなさい。

- |       |        |      |
|-------|--------|------|
| ア 山の音 | イ 夜明け前 | ウ 雪国 |
| エ 細雪  | オ 富岳百景 |      |

二 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| ① 吾手をコクフクした | ② 意思のソソウを図る | ③ ガセンやる気がでる |
| ④ ジャケンに扱う   | ⑤ 一人娘を溺愛する  | ⑥ 梯子をかける    |
| ⑦ 相手から麗倒される | ⑧ 潤舌が悪い     | ⑨ 柔直の極意を極める |

## 平成二〇年度生 入学選考試験 国語 [推薦入試]

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間のあり方を考えるうえで、人類学が⑦チヨソウして来た様々の文化の、これまではどちらかと言えば⑧コウトウ無稽と考えられて来た事例の方が、新しく立ち現れる現実を説明するのに時にはより有効であると考えられるようになってきた。例えば、次のようなニューギニアについての記述は、十数年前までは馬鹿馬鹿しい、痴れ者の⑨劇れと考えられたかも知れない。しかし、今日これを読む人に、何やら、⑩自分が密かに言いたいと思っていることを代弁されていると思う人は決して少なくないであろう。

クリストファー・デリックによれば、パプア＝ニューギニアの、アサロ河流域のグルンバ族の住民は、⑪ときどき発作的な行為に走ることもあるという。ある暑いけだるい日の昼下がりに、村の中を一人の男が突然逆上して走り出す。彼は目につくものを片っぱしから⑫寄越せと要求する。こうした時に、⑬周りの人は彼には全然逆らわない。壺でも石罫の切れ端でもナイフでも、彼らは何でも彼に渡す。野ブタ、の⑭ゴトく変身した男は、木製の矢じり、こんがらがった糸、煙草、石罫、衣類、ナイフ、網、皿といった⑮ザツタな物で大きな袋が一杯になると、それを⑯カツいで森の中に姿を消す。二、三日すると彼は袋を持たず、手ぶらで帰って来る。燃やしたり、どこか人知れぬ場所に埋めたり、壊したりしたのである。

こうした振舞いは、グルンバ族の間では文化の中の許容範囲に入っている。男は、森の中に身体中の⑰キンチヨウをしぼり出して来たというふうに理解され、彼はぶだんの生活に戻っていく。しかし何日もたたないうちに、また別の男が“野ブタ”になる。

他の社会で、犯罪人とか、通り魔とか、暴走族といった枠の中に入っていく人の多くは、こうした社会では平常の人間で生涯を送れたかも知れない。ある意味では、こうした行為は、ストレスに対する解放装置になっていると言ってもよいかも知れない。

オセアニアの多くの地域においてそうであるように、グルンバ族の感情生活、社会生活は、おおた物の交換の上に成り立っている。交換は、社会的コミュニケーションの⑱コンカンになるようなパイプであり、交換の場は、最も晴れがましい（ A ）である。交換においては、純粋な経済的機能はそれほど大きな位置を占めていない。人前で、見せびらかしながら品物をやり取りする行為は、むしろ（ B ）と言った方がよいようである。⑲それは、既に存在する関係を一方では強調しながらも、他方では新しい関係（交通）を打ち立てるという働きをしている。野ブタ、人間の出現は、多くの場合この交換の場に関連している。交換の時に渡すものがなかつたりした男は、⑳面子を失ってストレスを起す。このやり場のない感情が彼を駆り立てて、彼をして、野ブタ、人間に変身させるというわけである。

問一 傍線部㉗㉘について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 傍線部①「自分が密かに言いたいと思っていること」とはどのようなことか。最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア “野ブタ”人間には逆らってはいけないということ
- イ 社会には、ストレスに対する解放装置が必要であるということ
- ウ 社会には、人前で見せびらかしながら品物をやり取りする交換の場が必要だということ
- エ 社会は、犯罪人・通り魔・暴走族などをあえて許容すべきであるということ

問三 傍線部②「ときどき発作的な行為に走る」について、主としてどのような原因によると筆者は考えているか。

本文中の語を用いて、四十字以内で答えなさい。(句読点含む)

問四 傍線部③「周りの人は彼には全然逆らわない」のはなぜか。最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 「彼」はやがてふだんの生活に戻っていくとわかっているから
- イ 「彼」の行為は感情生活、社会生活上必要な交換の一種である、と認めているから
- ウ 「彼」の勢いのすさまじさを恐れているから
- エ 「彼」の行為は「彼」自身として理由がある、と認めているから

問五 空欄A・Bに入るのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア パフォーマンス                      イ 感情生活                      ウ 風景
- エ 劇場                      オ 行動

問六 傍線部④「それは何を指しているか。本文中から抜き出して答えなさい。

二 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- ① 物語がカキヨウに入った                      ② 地図をタドつて行く                      ③ カイモク検討がつかない
- ④ タンセイ込めて育てた                      ⑤ 不幸で高引きをもらう                      ⑥ 俄雨が降ってきた
- ⑦ 割烹着を着る                      ⑧ 都会の雑踏の中                      ⑨ メツギが剥離してきた

平成二〇年度生 入学選考試験 国語 [推薦入試]

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小景異情 その二

ふるさとには遠きにありて思ふもの  
 そして悲しくうたふもの  
 ※よしや  
 ※うちふれて異土の<sup>かた</sup>を食となることも  
 帰るところに※あるまじや  
 ひとり都のゆづぐれに  
 ふるさとおもひ涙ぐむ  
 ※そのこころもて  
 遠きみやこにかへらばや  
 遠きみやこにかへらばや

(室生 犀星 『抒情小曲集』)

[甲] これは年少時代の作者が、都会に①零落放浪していた頃の作である。母親と争い、郷党に②指弾され、単身東京に③ヒョウヘクして来た若い作者は、空しく衣食の道を求めて、乞食の如く日々街を放浪していた。そうした都会の空には、いつも晴れた青空があり、太陽は輝き、雀は公園の樹に④囀っていた。至る所の街々に、見知らぬ人々の群集する<sup>なみ</sup>浪にもまれて、ひとり都の夕暮れをさまよう時、天涯孤独の⑤悲愁の思は、遠い故郷人の⑥シボを禁じ得ないことであろう。しかもその故郷には、我をにくみ、⑦侮り、鞭打ち、人々が嘲笑っている。よしや零落して、乞食の如く⑧カシするとも、決して帰る所ではない。故郷はただ夢の中の中にのみ存在する。ひとり都の夕暮れに天涯孤独の身を嘆いて、悲しい故郷の空を眺めている。ただその心もて、遠き都に帰らばや。遠き都に帰らばや。

(注。ここで故郷のことを「都」といつているのは作者の郷里が農村でなく、金沢市であるからである。)

[乙] これを東京の作でなく、故郷金沢での作品と見る方が⑨タトウだろう。東京にいれば故郷はなつかしい。しかし故郷に帰れば( A )き感情に苦しむ。東京にいるとき( B )その心をせめて抱いて、再び遠き( C )に帰ろう、と見る方が詩句の上で無理が少ない。

……※とまれ故郷に対する愛憎と⑩憎悪の入り乱れる思いを主題とし、音楽的な旋律と、曲線的な流動の美しさをそなえて、抒情小曲としては、⑪渾然たる作品に近い。

(注) ※よしや	たとえ	※うちふれて	おちふれて
※あるまじや	あるまいよ		
※そのこころもて	そのこころを(大切に)抱いて		
※とまれ	ともあれ。ともかく		

(室生 犀星 『小景異情』より)

問一 傍線部⑦～⑩について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 上の詩を構成上四段に分けると、二、三、四の各段はどこから始まるか。それぞれ初めの三字を抜き出して答えなさい。

問三 空欄A・Bに入るのに最も適当な語を詩の中から探し、十字以内で答えなさい。

問四 空欄Cに入るのに最も適当な語を本文中から探し、漢字二字で答えなさい。

問五 「甲」の解説には、解釈上一つの無理があります。それはどのようなところが、二十字以内で答えなさい。

問六 「乙」の解説が、上の詩を「故郷金沢での作品」と見る根拠を、詩の中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問七 傍線部①「憎悪」の「悪」と同じ読み方をする語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- |      |      |      |
|------|------|------|
| ア 醜悪 | イ 好悪 | ウ 悪癖 |
| エ 陰悪 | オ 嫌悪 |      |

二 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- |                       |                         |                        |
|-----------------------|-------------------------|------------------------|
| ① 赤ペンで <u>テンサク</u> する | ② 現場から <u>シモン</u> を採取する | ③ 言葉に <u>カビシ</u> に反応する |
| ④ <u>シコウ</u> の域に達する   | ⑤ <u>架橋</u> 工事          | ⑥ <u>惨憺</u> をとらえた写真    |
| ⑦ 今年は <u>閏年</u>       | ⑧ 準備が <u>儼劫</u> になる     | ⑨ 人間は考える <u>葦</u> である  |

平成二〇年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一		問一	ア	麗句	イ	派手	ウ	印象	3点×6	
		エ	率直	オ	下手	カ	格調			
		問二	イ							7点
		問三	ウ							7点
		問四	ア							7点
		問五	イ							7点
		問六	内 容 を ず ば り と 表 す							9点
		問七	へ 々 な 美 文 調 よ り も 人 に 強 い 感 銘 を 与 え る 。	9点						
		問八	文 章 が 内 容 に 相 応 し な い か ら 。	9点						
二		①	カンマン	②	インボウ	③	カンボウ	3点×9		
		④	ゼンダイミモン	⑤	フオン	⑥	解熱			
		⑦	強情	⑧	互角	⑨	指摘			

平成二〇年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一	問一	ア	切符	イ	注文	ウ	自慢	エ	気配	3点×7		
		オ	なが	カ	またた	キ	ひしよう					
	問二	能率								7点		
	問三	B	エ	C	イ						5点×2	
	問四	ア								5点		
	問五	㉑	エ	㉒	カ						5点×2	
	問六	ウ								5点		
	問七	真	夜	中	ゝ	ば	か	り	7点			
	問八	旅に必要な要素								7点		
	二	問九	旅	と	は	、	能	率	・	実	用	性
		な	ど	と	は	無	縁	の	、	自	己	
		の	精	神	を	自	由	に	飛	翔	さ	
		せ	得	る	も	の	で	あ	る	。		
①	ソウゴシ		②	コウテツ		③	ヘンクツ		2点×9			
④	ハイセキ		⑤	ホンロウ		⑥	奮起					
⑦	予断		⑧	処方		⑨	道断					

平成二〇年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一	問一	(ア) 景物	(イ) おこえ	(ウ) 明暗	3点×8
		(エ) けんぶん	(オ) 過剰	(カ) 魅力的	
		(キ) やっかい	(ク) 逆手		
	問二	イ			7点
	問三	目は心の中をそのまま映し出すもの			7点
	問四	ウ			7点
	問五	気 負 い は な く			7点
問六	氷 に も く き な 瞳			7点	
問六	ウ			7点	
問七	見せない(隠す)			7点	
二	①	安否	②	機嫌	3点×9
	④	更新	⑤	キョウイ	
	⑦	ソウゴシ	⑧	リチギ	
			③	撤回	
			⑥	カンキ	
			⑨	シンギ	

平成二〇年度生 入学選考試験 解管用紙 国語 「推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一	問一	ア	孤独	イ	ぐち	ウ	抑制	エ	共鳴	3点×7			
		オ	貧弱	カ	きゆうせい	キ	めいふく						
	問二	読	点							4点			
	問三	A	エ		B	ウ		C	エ	4点×3			
	問四	ア								8点			
	問五	ウ								8点			
	問六	着実丁寧に身をけずるようにして仕事をし、ついに若くして亡くなったこと。								10点			
	問七	な	か	な	か	思	う	に	ま	か	せ	な	い
二	①	威圧		②	架空		③	口頭		3点×9			
	④	黙秘		⑤	いんそつ		⑥	がんぜん					
	⑦	ふんきゆう		⑧	てんか		⑨	にくはく					

平成二〇年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

二	⑦	さいご	⑧	ぜんしょ	⑨	はいせき
	④	特異	⑤	おんけん	⑥	みとう
	①	意外	②	器官	③	欠如
問九	1	虹には色の配列の順序があるがオーロラにはない				
	2	虹には中間色があるがオーロラは原色に満ちている				
問八	感じ	たか	ら	天	帝	の威嚇と
	北極光	を	上	は	る	か
問七	と	こ	ろ	で	消	え
	矢	は	頭	上	は	る
問六	たえま・間のとぎれること・きれめ					
問五	B	ク	C	ウ	D	ア
					E	ウ
問四	北極光					
問三	方	向	を	失	う	か
						ら
問二	恐怖におそわれていたから					
問一	ケ	いかく	コ	秩序		
	オ	危害	カ	舞踏	キ	権威
	ア	爆発	イ	静寂	ウ	暗闇
					エ	背景
						すで

2点×10 6点 6点 6点 2点×4 6点 6点 10点 10点 5点×2 2点×9

平成二〇年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

二	①	一髪	②	請	③	境遇							
	④	俟約	⑤	じゅっじゅん	⑥	ふはい							
	⑦	ふんきゆう	⑧	きよき	⑨	げんしゆく							
問一	オ	まき	カ	くら	キ	更	ク	きまぐ	ウ	豊満	エ	敵然	3点×10
	ア	砕	イ	霜									
問二	ケ	ひらめ	コ	わめ									
	a	擬人	b	主									3点×2
問三		イ											3点
問四	B	カ	C	ク	D	エ	E	ア					3点×4
問五	紅	葉											5点
問六	一度におびたしい落葉を運んでくる												6点
問七	追	い	は	ぎ									6点
問八	す	べ	て	が	冬	に	一	変	す	る			5点

平成二〇年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 推薦入試

受験番号		氏名	
------	--	----	--

二		⑦	せんぞいいちぐう	⑧	せんこう	⑨	ろれつ	3点×9
		④	薄利	⑤	くいそくかん	⑥	しもん	
一		①	休暇	②	決裂	③	尽力	10点
		問八	け た ヌ 高 い 声 が カ モ が 飛 ぶ の と 、 と を か ん あ る 掛	問七	イ	問四	イ	
		問六	ウ	問五	あ ..... る	問三	エ	5点×2
		問二	ウ	問一	ケ 芝生 コ ゆうぜん	問一	オ 制止 カ 軒 キ 眼鏡 ク 趣味	3点×10
		問一	ア 面白 イ ひげ ウ 名残 エ 愉快					

平成二〇年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一		問一		問二		問三		問四		問五		問六		問七		二		2点×9
⑦	ばとう	④	邪陰	①	克服	③	俄然	②	陳通	⑤	できあい	⑥	はしご	⑧	かつぜつ	⑨	つくい	2点×10
⑧		⑤		②		⑥		③		⑦		④		①		⑧		3点×3
⑨		⑥		③		⑦		④		⑧		⑤		②		⑨		3点×6
		⑦		④		⑥		⑤		⑦		④		③		⑧		3点×4
		⑧		⑤		⑥		④		⑦		⑤		③		⑨		10点
		⑨		⑥		⑦		⑤		⑧		⑥		④		⑧		7点
		⑩		⑦		⑧		⑥		⑨		⑦		⑤		⑩		3点×2
		⑪		⑧		⑨		⑦		⑩		⑧		⑥		⑪		3点×3
		⑫		⑨		⑩		⑧		⑪		⑨		⑦		⑫		3点×6
		⑬		⑩		⑪		⑨		⑫		⑩		⑧		⑬		3点×4
		⑭		⑪		⑫		⑩		⑬		⑪		⑨		⑭		2点×10
		⑮		⑫		⑬		⑪		⑭		⑫		⑩		⑮		2点×9
		⑯		⑬		⑭		⑫		⑯		⑬		⑪		⑰		3点×2
		⑰		⑭		⑮		⑫		⑰		⑬		⑪		⑱		7点
		⑱		⑮		⑰		⑫		⑱		⑬		⑪		⑲		3点×3
		⑲		⑯		⑰		⑫		⑲		⑬		⑪		⑲		3点×6
		⑳		⑰		⑱		⑫		⑳		⑬		⑪		㉑		3点×4
		㉑		⑰		⑱		⑫		㉑		⑬		⑪		㉒		10点
		㉒		⑰		⑱		⑫		㉒		⑬		⑪		㉒		7点
		㉓		⑰		⑱		⑫		㉓		⑬		⑪		㉓		3点×2
		㉔		⑰		⑱		⑫		㉔		⑬		⑪		㉔		3点×3
		㉕		⑰		⑱		⑫		㉕		⑬		⑪		㉕		3点×6
		㉖		⑰		⑱		⑫		㉖		⑬		⑪		㉖		3点×4
		㉗		⑰		⑱		⑫		㉗		⑬		⑪		㉗		2点×10
		㉘		⑰		⑱		⑫		㉘		⑬		⑪		㉘		2点×9
		㉙		⑰		⑱		⑫		㉙		⑬		⑪		㉙		3点×2
		㉚		⑰		⑱		⑫		㉚		⑬		⑪		㉚		7点
		㉛		⑰		⑱		⑫		㉛		⑬		⑪		㉛		3点×3
		㉜		⑰		⑱		⑫		㉜		⑬		⑪		㉜		3点×6
		㉝		⑰		⑱		⑫		㉝		⑬		⑪		㉝		3点×4
		㉞		⑰		⑱		⑫		㉞		⑬		⑪		㉞		10点
		㉟		⑰		⑱		⑫		㉟		⑬		⑪		㉟		7点
		㊱		⑰		⑱		⑫		㊱		⑬		⑪		㊱		3点×2
		㊲		⑰		⑱		⑫		㊲		⑬		⑪		㊲		3点×3
		㊳		⑰		⑱		⑫		㊳		⑬		⑪		㊳		3点×6
		㊴		⑰		⑱		⑫		㊴		⑬		⑪		㊴		3点×4
		㊵		⑰		⑱		⑫		㊵		⑬		⑪		㊵		2点×10
		㊶		⑰		⑱		⑫		㊶		⑬		⑪		㊶		2点×9
		㊷		⑰		⑱		⑫		㊷		⑬		⑪		㊷		3点×2
		㊸		⑰		⑱		⑫		㊸		⑬		⑪		㊸		7点
		㊹		⑰		⑱		⑫		㊹		⑬		⑪		㊹		3点×3
		㊺		⑰		⑱		⑫		㊺		⑬		⑪		㊺		3点×6
		㊻		⑰		⑱		⑫		㊻		⑬		⑪		㊻		3点×4
		㊼		⑰		⑱		⑫		㊼		⑬		⑪		㊼		10点
		㊽		⑰		⑱		⑫		㊽		⑬		⑪		㊽		7点
		㊾		⑰		⑱		⑫		㊾		⑬		⑪		㊾		3点×2
		㊿		⑰		⑱		⑫		㊿		⑬		⑪		㊿		3点×3
		㊿		⑰		⑱		⑫		㊿		⑬		⑪		㊿		3点×6
		㊿		⑰		⑱		⑫		㊿		⑬		⑪		㊿		3点×4
		㊿		⑰		⑱		⑫		㊿		⑬		⑪		㊿		2点×10

平成二〇年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

二		⑦	かつぼうぎ	⑧	ぞつとつ	⑨	はくり	3点×9																																				
		④	丹精	⑤	きびき	⑥	にわかあめ	3点×9																																				
		①	佳境	②	辿	③	皆目	3点×9																																				
一		問六	交換				8点		5点×2																																			
		問五	A	エ	B	ア	5点		5点×2																																			
		問四	ア				5点		5点																																			
		問三	そ	れ	を	解	放	す	る	た	め	。	て	ス	ト	し	ス	を	起	こ	し	っ	な	い	た	め	に	面	子	を	失	っ	交	換	の	場	で	渡	す	も	の	が	15点	
		問二	イ				5点		5点																																			
		問一	④	根幹	⑤	めんつ	⑥	雑多	⑦	荒唐	⑧	たわむ	⑨	よこ	⑩	緊張	⑪	貯蔵	⑫	如	⑬	如	⑭	担	⑮	緊張	⑯	よこ	3点×10															

平成二〇年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一		問一	㉖	ひしゅう	㉗	れいらく	㉘	思慕	㉙	しだん	㉚	漂泊	㉛	餓死	㉜	たえず	3点×10								
		問二	㉝	妥当	㉞	こんぜん																			
		問三	A	帰る	と	こ	ろ	に	あ	る	ま	ま	じ	B	ふ	る	さ	と	お	も	ひ	涙	ぐ	む	5点×2
		問四	東	京											5点										
		問五	都	を	東	京	と	金	沢	に	わ	け	て	考	え	て	い	る	と	こ	ろ				8点
		問六	み	や	こ	に	か	へ	ら	ば	や						5点								
		問七	イ	オ											3点×2										
二		①	添削	②	指紋	③	過敏	④	至高	⑤	かきよう	⑥	さんか	⑦	うるうとし	⑧	おつくう	⑨	あし				3点×9		